



普通煎茶4^キの部 1等4席
 全国茶生産団体連合会 会長賞
 ~interview~
 入賞者

第三者に認められることが 川根茶ブランドの存続につながる

相藤園 相藤 令治さん (藤川区)

皆さんの支えが力に
 品評会に出品し続けることは本当に大変なことです。摘採前には毎日茶園に足を運び、日々変わる気象条件に合わせて、細やかな管理をしなければ良いお茶はできません。自分が納得したもので、審査員には評価されないこともあります。今回の入賞は、私だけの力ではなく、地域の皆さんや家族、農協、行政の方たちのご支援があったからこそだと思います。

お茶は人間に似ている
 私がお茶作りで思うことは、「お茶は人間を相手にすることと同じ」だということ。手を掛

ければ掛けただけ味や香りで応えてくれるし、手を抜けば、絶対に良いお茶はできません。毎日お茶に触れ、お茶の声を聞き、お茶が何を欲しているか考える、その繰り返しが必要なんです。

川根茶産地の未来
 川根茶の良さを客観的に評価してもらえない場合は品評会しかありません。先輩から引き継いだ技術や伝統を次の世代に残していくために、出品し続けることは義務だと感じています。全国の大きな品評会だけでなく、小さな品評会であっても、川根茶を宣伝する良い機会になります。ぜひ若い農家の皆さんには挑戦して欲しいと思います。

産地賞を受賞しても、川根茶の存続に繋がるわけではありません。この栄誉を茶農家を中心となり、行政や農協、商工業と連携を取りながら、産地を揚げて盛り上げていく必要があります。川根茶を1回でも味わってくれば、他の産地にはない良さを感じてもらえると信じています。今後の宣伝活動が川根茶存続の鍵になるのではないのでしょうか。

普通煎茶4^キの部 1等2席
 農林水産省生産局長賞
 ~interview~
 入賞者

若い農家には茶作りの本質を見極めて挑戦して欲しい

川崎 好和さん (藤川区)

関係者の皆さんに感謝を
 新型コロナウイルス感染症の影響で、全国茶品評会の開催が危ぶまれていた中、尽力された南九州市や主催者、そして私の出品を支援してくれた農協やお茶摘みさん、行政などの関係者の方々に感謝しています。

生涯お茶に携わりたい
 私は皆さんから「いつまでお茶を続けるの?」とよく聞かれます。そんなときは決まっています。「100歳までやる」と答えています。これは先輩である元県茶業試験場長の岸本浩志さん(水川区)の「川根本町の様な小さな産地は、全国茶品評会に

出品し続けなければ忘れ去られてしまう。良い成績を残せなくても出品することに意義がある」という教えが私の原動力になっているからです。

茶作りに好条件が揃う町
 この町の気象、土壌条件は高級煎茶の栽培に最も適しています。全国的に見てもこのような好条件の産地はないと思います。この環境を活かし、面積的に規模を拡大することができない山間地であっても、労働集約型茶業で他産地にはできない茶作りができると思います。

お茶作りの本質を見極める
 時代がどんなに変わろうとも、物事の本質は変わらないと思います。お茶作りも同じです。私はお茶作りから多くのことを学んできました。お茶は嘘はつかないのです。人間が真正面から向き合えば、必ず良いお茶ができる。こんな想いを若い茶業者と共有しながらこの町で挑戦を重ね、川根茶の名声が全国に知られるように、全ての関係者と共に頑張っていきたいです。

~interview-家族の声~



相藤 佐枝子 さん

主人と一緒に川根茶を守っていききたい

今年も、相藤園のお茶を楽しみに注文してくれたお客様がたくさんいます。そんな方々の「今年のお茶も美味しかった」という声を聞くとすごく励みになります。主人のお茶をインターネットで販売することが私の仕事なのですが、次年度のお茶作りに反映させるために、お客さんからの声を主人に伝えています。大きく変える部分はないけど、お客様の声は相藤園にとってはなくてはなら

ないものなのです。実は主人には「お茶は大変だからもう止めたらどう?」と聞いたことがあります。実際、家計をやりくりする私としては本当に大変なので。でも、今では私も川根茶を途絶えさせてはいけない、なんとか残したいという気持ちが芽生えています。自分が携わる仕事を残していくために、この先も主人と一緒に川根茶に貢献できればと思っています。

挑戦を続ける主人を見守っていききたい

こんな大きな賞を頂けることに本当に驚いています。お茶のことには一切の妥協を許さない主人。周囲の方々には大変な思いをさせてしまったことも多々あったと思いますが、今まで多くの先輩、地域の皆様のご指導のおかげと感謝しています。融通の利かない主人に対し悩んだこともしばしば。「うまいご飯だけ作ってくればいい」と言われたわりには肩に掛かることが多すぎました。

私には100歳になる母親がまだ元気です。藤川区の集落には同学年で長男の家庭に嫁ぎ、家を守っている仲間がいます。同じ境遇の私の背中を押し、いつまでも強い味方になってくれていることが本当に嬉しいです。いつまでやれるかわかりませんが主人のお茶に対する姿勢に頼もしさを感じながら、気の済むまで挑戦し続けて欲しいと思います。

~interview-家族の声~



川崎 壽美子 さん